

3月卒業式

～小中学校の卒業式にて～

3月は桜の開花とともに卒業式の季節です。

私たち福生市民生委員児童委員も、市議会議員や各町会長、保護司の方々と共に福生市内の小中学校卒業式に地域の来賓として参列させていただきました。

【中学校の卒業式にて】

一足先に福祉センター前の河津桜が満開を迎え、春を身近に感じ始めた3月19日に中学校の卒業式が執り行われました。

前日から天候が崩れ、この時期には珍しいとの予報のとおり降雪となり、早朝から雷も鳴り響くという荒天で、校舎や校庭にも雪が降り積もりあたり一面真っ白という、思い出と記憶に残る門出となりました。

教育目標の「自立・共生・貢献」を3年間の学校行事の中で学び、一人ひとりが名前を呼ばれると「はい」と元気に返事をして「卒業証書」を受け取り、壇上から在校生や保護者の方を見て踏み出す一步がとても力強く、これから進むべき道への確固たる覚悟の姿勢が大変頼もしく立派に見えました。

来賓祝辞の中で「誰でも最初は初心者、悩んだら前に進め」という言葉がありましたが、自分自身を振り返ると、その時々で悩んだり考えたりして一步步進んできた結果、今の自分がいると身につまされる言葉でした。

圧巻だったのは「送る言葉・門出の言葉」です。卒業生総勢153名が舞台の前いっぱいになり並んだ場面は凄く圧倒されました。卒業生と向き合った先生方や在校生だけでなく、保護者家族や子ども地域のみなが一つになったと思える瞬間で、校歌斉唱の際には胸が熱くなり、思わず大きな声で歌った忘れられない思い出となりました。

民生委員児童委員の中には、高校受験対策の面接試験官として授業に参加した委員もいて、入退場の際には生徒たちに大きな拍手を送っていました。

「学びは力」と言いますが、学校の勉強から学んだこと、様々な経験から学んだことをこれからの自分の将来に役立て、真っ白な門出を自分の色に染めていってもらいたいと切に願っています。



【小学校の卒業式にて】

3月25日には小学校の卒業式が執り行われました。

中学校の卒業式とは打って変わって晴れて暖かな天候で、正門の卒業式の看板の前や校庭の桜の木の下では卒業生家族が笑顔で記念写真を撮っている姿が見られました。

今年の卒業生は6年間の学校生活のなかでコロナ禍の期間が長く、いろいろな制限を受け大変な時期を過ごしたことと思います。

本来の生活に戻ったのは3年前位からで、地域との交流も徐々に活発になり、私たち民生委員児童委員だけでなく、学区内の町会や老人会の方々と一緒に授業に参加させて頂いたことを思い出します。

授業は学年によって様々で「まち探検ガイド」「危険箇所探し」「駅探検」「昔遊び」「将来の職業別講演」「車椅子体験」「介護ボランティア」と盛り沢山で、参加した地域の方々も勉強して事前の準備を万全に臨みました。

運動会では、各町会の祭り半纏を着てグラウンドいっぱいには踊るソーラン節を見ながら「うちの町会の半纏が一番」とか「うちの町会はあのような半纏だったのか」と応援の保護者家族などからの言葉が印象的で、自分たちが住んでいる地域に愛着と誇りを持っていることが感じ取れました。

卒業式の壇上では、しっかりと前を見つめ名前を呼ばれると「はい」と元気な返事の後「僕の夢」「私の夢」を発表し、そのためにこんな努力をしますとはっきり述べていました。自分たちの世代では漠然と会社員や運転手、大工等、友達同士で将来なりたい職業を話したことはあっても、みんなの前で公言する機会はありませんでした。今の子ども達は「将来は料理人になって皆を笑顔にしたいので、中学校に行ったら真剣に勉強します」等話することができ凄いなと思います。

門出の言葉では一人ひとりが学校生活を思い出しながら涙を浮かべる姿につい胸が熱くなりました。

「子どもは宝」として、今後とも地域で子ども達の成長を見守り続けなければと再確認した卒業式でした。

